

修習技術者の声

まつばら君が歩く 技術士への道

まつばら たけし
松原 武志
(建設(修習)・長崎)



◆こんな仕事をしています

私は建設コンサルタント会社に勤務し、国が発注する工事の発注者支援業務に従事しています。

主には、河川・ダム・砂防に関し、発注者の立場で工事発注に必要な契約図面の作成、数量計算書の作成、積算システムのデータ入力、積算の根拠資料の作成をすることなどが挙げられます。

◆第二次試験を受験しました

令和3年度の技術士第一次試験で合格となり、令和4年度に第二次試験を、選択科目「施工計画、施工設備及び積算」で初受験しました。結果は不合格となりましたが、私にとっては、満足できる成績でした。

◆自分に不足しているものは何か

感じたのは、訓練をせずに、当日の試験会場で、アイデアを創出するのは難しいということでした。また、自組織や、興味のある観点だけにとらわれて、

多面的な観点を有していないことも認識しました。

◆日常業務に結び付けた二次試験対策

それからの私は、第二次試験で問われている「多面的な観点からの課題」、「課題に対する解決策」、「新たに生じるリスク」、「社会の持続可能性に必要な要件」を日常の業務にあてはめて考えています。このことは、単に第二次試験の対策としてだけではなく、日常の業務における、報告書作成や改善提案作成のフレームワークにも活用できています。

◆循環的な学びも取り入れました

社会人が大学等で学び直し、新しい知識を血液が循環するように取り入れる「リカレント教育」という考え方がアカデミアにあります。私は、3年前に九州大学大学院のMBA課程に社会人学生として入学しました。所属会社の配慮もあり、技術経営(MOT)科目を学ぶことができました。経営リスクマネジメント、人的資源管理、管理会計、知識マネジメントの科目が技術士と親和性が高いものでした。

◆修習技術者として最後に一言

このように、きわめて自己流の色彩が強い学びですが、自分を信じ、楽しみながら全力で二次試験に向かう所存です。皆様、よろしくお祈りします。

所属：株式会社九州建設計画エンジニアリング

(E-mail: matsubarakun@kyudai.jp)

技術士としての 将来像を考える

うどう きみたか
有働 公崇
(建設(修習)・熊本)



私は現在、建設コンサルタントに勤務し、設計部に所属しています。もともと私は、大学卒業後金融関係の職に就いていました。その後、土地家屋調査士事務所に4年間勤めたのち、ご縁があり現在の会社にお世話になっています。土木関係の職に就いているとは、大学時代の私はこれっぽっちも思っていませんでした。畑違いの分野への転職を経験し、もちろん不安に思うこともありましたが、まったく知らないことばかりで、自分の世界が広がるような感覚もあり、それも含めて楽しめているかなと思います。

さて、現在の会社に入社し、痛感していることが資格の重要性です。誰だって仕事をお願いするときには、その道のプロにお願いしたいものだと思います。そういった知識やスキルを証明するものが資格

になると考えます。

資格取得に向けて勉強を行い、少しでも多くの知識や思考を身に付けることが、資格取得のためだけでなく日々の業務にも活かされていこうと思えます。

現在、会社内で個々のスキルアップ等を目指した、新入社員研修や若手技術者勉強会が開かれています。若手技術者勉強会の初回で、次のような問いがありました。“技術者としての現在、5年後、10年後の姿を自問自答してみよう”というものです。日々の業務に追われ、なかなか自己研鑽の時間を設けることは難しいこともあるかと思いますが、自分の将来像を設定しておくことで、ふと立ち返った時に、今の自分に足りないものはなにか考えるきっかけになるのではないかと思います。まだアバウトにしか考えられませんが、いつかは道路、河川、砂防など何かの分野のプロになればと思います。

そのためにも、日々の業務や自己学習などを通して、思い描く5年後10年後の技術士としての姿に近づけるように頑張りたいと思います。

所属：株式会社興和測量設計

(E-mail: udou-k@kowa-kk.co.jp)